

教育委員会会議録

令和4年（2022年）10月定例教育委員会会議

開 会 日	令和4年（2022年）10月27日（木）	
開 会 時 間	午後2時00分 ～ 3時05分	
開 会 場 所	SPring熊本花畑町 7階 D会議室 ※一部オンライン開催 オンラインでの出席者については各執務室	
出 席 者	委員 会	遠藤洋路 教育長 出川聖尚子 委員 小屋松徹彦 委員 西山忠男 委員 苦野一徳 委員 澤栄美 委員
	事務局	松島孝司 教育次長 中村順浩 教育総務部長 田口清行 学校教育部長 他
提 出 議 案	議第70号 特定事業契約締結について 議第71号 指定管理者の指定について 議第72号 指定管理者の指定について 議第73号 熊本市立図書館設置条例の一部改正について 議第74号 熊本市立高等学校条例の一部改正について 議第75号 熊本市公民館条例の一部改正について 議第76号 熊本市立野外教育施設条例の一部を改正する条例の一部改正について	
報 告	(1) 令和4年第3回定例市議会報告について (2) 令和4年度（2022年度）第58回熊本市学校環境緑化コンクールについて (3) 令和5年度（2023年度）小中一貫校への移行について	
署 名	西山 忠男	
	出川 聖尚子	
会議録作成者	教育政策課 玉野あゆみ	

<p>〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長</p> <p>〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長</p> <p>〔公開の審議〕 遠藤洋路 教育長</p> <p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>令和4年10月定例教育委員会会議を開会いたします。</p> <p>本日は、私の他5人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。</p> <p>会議録署名人は、出川委員と西山委員とします。</p> <p>本日の会議の内容につきましては、会議日程のとおりですが、招集通知後に追加で協議をお願いしたい案件が発生したため、案件を追加しております。当該案件は、議第76号 熊本市立野外教育施設条例の一部を改正する条例の一部改正についてです。</p> <p>また、本日の議事のうち、議第70号 特定事業契約締結について、議第71号 指定管理者の指定について、議第72号 指定管理者の指定について、議第73号 熊本市立図書館設置条例の一部改正について、議第74号 熊本市立高等学校条例の一部改正について、議第75号 熊本市公民館条例の一部改正について、議第76号 熊本市立野外教育施設条例の一部を改正する条例の一部改正については、会議規則第13条第2号「教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する案件」の非公開事由に該当することから、非公開の審議が適切だと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>議第70号から議第76号までにつきまして、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">（全員挙手）</p> <p>全員賛成により、議第70号から議第76号までは、非公開とします。</p>
<p>日程第1 前回会議録等承認</p> <p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>9月22日開催の令和4年9月定例教育委員会会議録を各委員のお手元に配布しております。この会議録を承認することに、ご異議はありませんか。</p>

（異議なしの声）

異議なしと認め、前回会議録等を承認することに決定します。

日程第2 事務局報告の件

（1）事業・行事等報告について

- 前回定例会議（R4.9.22）以降の事業・行事報告
- 今後の予定

日程第4 報告

- ・報告（1）令和4年度第3回定例市議会報告について

《資料事前配付》

西山忠男 委員

資料6 ページの教職員の不足についてですが、以前からなかなか教員採用試験に受験者が増えないとか、いろいろ問題があります。前回もご指摘しましたように、文科省はよい教員を確保するために教員試験を前倒しで実施する方向で協議会を立ち上げて、この間の新聞によると、早ければ4月、遅くとも5月、6月という案が出ていましたけど、そうすることで本当によい教員がたくさん確保できるのかどうかという問題と、前倒しすることのデメリットもいろいろあるかと思うんです。2024年度から、もう前倒しで実施する方向のようですので、そのあたりについて教職員課はどのようにお考えなのか、ご意見を伺えればと思います。

濱洲義昭 教職員課長

まず、前倒しすることによって本当に教員が確保できるのかということですけど、最近文科省が全国の担当課長向け、教育長向けの会議を開いていまして、検討を開始しています。

試験を前倒ししないと民間に人材が流れるという文科省の説明はあったんですけど、本当にそうなのか、そういったエビデンスがあるのか、そういった質問が結構出ています。

ですので、前倒しすると本当に増えるのかどうかというのは、私どもも含めて、まだ全国の自治体、本当に確保できるかというのがよく分からない、このような状況が1点です。

それから、前倒しすることが可能なのか、そのデメリットは

	<p>ということについては、試験をするには問題を作らないといけないので、その問題を今のところ自前で作っている状況もありますから、その人員体制などが問題となっています。</p> <p>今のところはそういう状況です。</p>
西山忠男 委員	<p>そのとおりだと思うんですけど、前倒しで人材を確保する見通しが立たないとすると、今後どういう方策で教員を確保していくのでしょうか。前々から議論はしていることなんですけど、この辺について、せっかく議会で議論されているわけですから、教職員課の見解をお尋ねしたいと思います。</p>
濱洲義昭 教職員課長	<p>資料にもありますが、この不足の解消と、それから多く人を集めることについてのいろんな対応を考えていますが、1つには、今、臨採に頼る割合が多いので、これをできるだけ解消していくということを一つ考えているところです。それも時間がかかります。ですから、採用試験においては、来年度の採用試験に向けてまた新たな取組ができないかどうかを今検討しているところです。</p> <p>また、現在、新年度予算の検討時期にあります。これは過去の議会でも答弁をしておりますけど、もう少し中長期的な取組になるかと思いますが、大学と連携した取組が何とかできれば、今は3年生以降、教育実習に行かれるという状況を、もっと早い時期、1、2年生のうちから本市の教育現場を体験していただいて、そして教員の志望をもっと強めていただくと、そういった話ができないかということで、今検討をしているところです。</p>
西山忠男 委員	<p>よく分かりましたけど、問題は採用する人数を増やすというだけではなくて、質のよい教員を確保しなきゃいけないと。そのために、受験者を増やす必要がどうしてもあると思うんですよ。そこの工夫が大切で、今までの受験者を見ると、他県に進学して、故郷の熊本市で働きたいから受験したという人が結構いますので、候補者になるような人たちにうまくアピールするような方法が何か考えられないかなと思うんですけど、いいアイデアはないでしょうかね。</p>
濱洲義昭 教職員課長	<p>大阪会場で採用試験をやるという取組を今年始めました。そのおかげといたしますか、志願者数は多くなりましたので、少な</p>

西山忠男 委員	<p>くとも、来年度以降もしばらく継続していこうと思います。</p> <p>西山委員がおっしゃったような直接的な動機につながるような仕掛けについては、今後考えていきたいと思っています。</p> <p>大阪会場でやったというのは非常によい取組だったと思いますが、ポテンシャルとしては福岡会場でやるほうがいいんじゃないかなという気もします。その辺はどうでしょうか。</p> <p>熊本から進学する人数はやっぱり福岡が多いんじゃないかなと思うので申し上げるんですけど、どうでしょうか。</p>
濱洲義昭 教職員課長	<p>最初に検討するときに、福岡でやろうかという案もありました。福岡以外にも東京あるいは広島など、受験者数が多い地域を考えました。</p> <p>福岡に関しては、九州管内は同じ試験日で重複しますので、受験日が重複しないというところに主眼を置き、大阪でやるという視点になったところです。</p> <p>これから先、先ほど議論に出ましたとおり、各団体が試験日を前倒しするという動きが出てきたときには、取り合いのようなことになり、バランスが崩れてくることになりますので、その動きは注視したいと思っております。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>福岡の人は、試験日が夏休み中ですので、熊本で受けることはそんなに難しくはないのかなと思うんですけど、やっぱりある程度距離的に離れたところでやるのが効果的なのかなとは思いますがね。今回、県は東京で、市は大阪でやったんですけど、いずれ両方でというのもいいのかもしれないと思います。</p> <p>菅野委員、教育学部の感覚からいうと、教育実習を早くしたり、採用試験を早くしたりすると、教員になる人が増えるということはあるんですかね。</p>
菅野一徳 委員	<p>熊本大学からの受験者をもっと増やしたいと思っているところなんです。熊本大学教育学部には他県から来ている人が多いので、故郷に戻ってしまうというのもあるんですが、逆に、今年たくさん私が聞いたのは、他県へ戻るつもりだったけど熊本市を受験したという学生も、ちらほらいたんですね。それは熊本市の教育に魅力を感じたというのがあって、結局のところ、ここが一番かなと思います。</p> <p>1年生のときから実習というのもぜひともお願いしたいと思</p>

	<p>っているんです。現場を見て、子どもたちと関わって、これは楽しい、自分はあまり教員になる気はなかったけど、こんなに楽しい現場だったらなりたいたいと思った学生も結構いるんですね。ということは、現場経験というのは最も大きな動機になると思いますので、それはとてもありがたいことかなと思っています。</p> <p>推測なんですけど、現場に行ったときに、実習生がそれなりのことを任されて、先生として、単に指導を受けるというよりは、共に仲間として育ててもらったり、一緒に実際に関わっているという、この感覚が決め手というか、すごく大事だという感じがしています。しかも、その中で子どもたちからすごく慕われてという経験が、かなり後押しになっているなと思います実習中、あるいは初任の先生たち、若い先生たちも、自分がやりたいことがあると言ったら、学校全体、教育委員会全体で、こんなにも応援してもらえるんだと思えるような体制をつくって、それをアピールできれば、かなり可能性はあるんじゃないかなと個人的には感じているところです。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>時期が早くなるだけだと別に変わらないのかなと思いましたけど、そうではなくて、結構効果があるんじゃないかということですね。</p>
苫野一徳 委員	<p>今も、見学という形ではあるんですけど、早めに前倒しはしているんです。もっといろんなところで現場に関わらせていただけて、しかもその現場が学生たちの受入れを、さっき言ったように仲間として受け入れてくださるというか、そうなるモチベーションは相当上がるんじゃないかなという気はしています。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>今もサポーターや支援員など、いろんなかたちで大学生の方にも来ていただけてますし、そういうものをもっと増やしていくというのが一つの方向性と、教育実習や教員として学校に入る期間をもう少し早い時期からつくるという両方なんですかね。分かりました。</p>
西山忠男 委員	<p>早めに教育実習するというのはいいアイデアだと思うんですけど、受け入れる学校側の負担というのも気になるんですよ。私は、実は母校の高校に教育実習に行かせてもらったときに、</p>

松島孝司 教育次長

免許を取るだけで教員にならない人が学校にたくさん来て迷惑しているのだよと言われたことがあるんですよ。だから、1年生ぐらいはまだ本気で教員になるかどうか迷っている人が多いと思うので、そういう人がたくさん現場に行ったときに、現場が混乱する、あるいはかなりの負担になるということだと問題かなと思うんですけど、そのあたり、現場感覚としてはどうなんでしょうか。

以前だったら、確かにおっしゃるところもあったのかもしれませんが。ただ、校長たちと話をすると、最近の実習に対する考え方は、いずれ熊本市で教員となってくれば、結局自分たちに返ってくるわけですから、大切に育てようという意識が強いなど感じております。

それと、先ほど苫野委員がおっしゃったところは、実は複数の校長からその話を聞いています。以前、学習指導員をした学生さんが、報酬はなくてもいいからボランティアで学校のお手伝いをしたいと申し出てくれて、学校で活動しているというケースです。

学習指導員に対する教職員の意識としては、教育実習は指導する側、される側という立場がありますが、学習指導員は自分たち教員が困っているのを手伝いに来てくれた仲間という認識があったみたいです。そのため、学習指導員は先生たちと一緒に仲間として活動することで先生たちのやる気や考えが見えてきて、教員を志す思いが強くなった、という話を聞きました。確かに、早い段階で実習ではなくて学校のスタッフとして手伝いに入るというのはすごく効果があるんだろうと、感じております。

遠藤洋路 教育長

実習生よりも指導員とかスタッフのほうが仲間意識があるものなんですね。今初めて聞いて、そうなんだなと思いました。

そういう機会はこれからも増やしていきたいし、学校のほうも今人手不足ですから、大歓迎ですので、それは教育委員会でも考えていきたいと思えます。

西山委員が教育実習をされた頃というのは、今と教員採用試験の倍率も違うでしょうから、今はそういうことを言う人はいないだろうと思えますけどね。

小屋松徹彦 委員

2ページに部活動の地域移行についてというのが質疑として

	<p>出ておりますが、その中で受皿の整備充実というのが書いてあります。運営団体をつくって指導者を派遣する方法、総合型の地域スポーツクラブや民間事業者が受入先となって運営する方法が考えられているようにお答えされています。運営団体をつくって指導者を派遣する方法というのは、どちらかという指導員の確保という点からかなと思ったんですけど、間違っていれば、ちょっとそこら辺のご説明をお願いしたいというのが1点。</p> <p>それから、総合型の地域スポーツクラブ、これは今現在、熊本市内でどれぐらいあるんですかね。小学校区で半分ぐらいできていますかね。</p>
遠藤洋路 教育長	30ぐらいとお聞きしています。
小屋松徹彦 委員	30ぐらいですね。受入先として、その実情はどうかということですね。今のスポーツクラブがどういう状況なのかということもヒアリングしてみたり、あるいはその現場の方々の意見を聞く機会もぜひつくってもらいたいと思います。そういったことを部活動の改革検討委員会などにも反映できるんじゃないかなと思うんですが、そこら辺のご意見ございましたらちょっと教えてください。
松永直樹 学校改革推進課長	<p>まず、運営団体をつくり指導者を派遣する方法というのは、おっしゃられるとおり、指導員の確保というのがメインにありますが、運営団体のつくり方にも様々ありまして、行政外に団体をつくる、中につくる等あります。今後、他都市の先進事例も含めてご紹介をさせていただいて、議論の一助にしたいと考えます。</p> <p>また、地域スポーツの担い手としては総合型地域スポーツクラブの活用というの也被考えられます。こちらの状況についても、今後開催いたします改革検討委員会の中でもご報告をさせていただこうと考えております。現状では、当初熊本市内では30ほどつくる予定でしたが、現在、20ほどできている状況です。</p> <p>その中で、財政的にもしっかりとした基盤を持ち、生徒数、児童数もかなり入っている、充実した活動を行っておられる団体がある一方で、実際の運営を担っていらっしゃる方々が高齢化をして、今後の運営にご不安があるという団体も出てき</p>

小屋松徹彦 委員

ているとお聞きをしております。

今後、議論を進めるには、そういった熊本市の実情をしっかりと把握する必要があると思いますので、教育委員会会議の場でもご報告をさせていただく等、情報共有しながら改革を進めたいと考えております。

私が体協をやっていた頃に、総合型の地域スポーツクラブをつくろうかという話をしたことがありました。結果的に未だできていないのですが、やがて、近いものをつくろうかなという動きは出ています。

一番ネックだったのは、誰がそのクラブをまとめていくのかという、一番中心になる事務局の確保というのが非常に難儀して、そこにある程度の報酬を払わないといけないけど、この確保が難しいと。そうすると、会員を増やさないと会費が集まらないということで、経済的に非常に大変だということもあり、一時期中断した時期がありました。

今後、もし地域移行ということでスポーツクラブの役割ということになってくるのであれば、資金の手当てというのが地域でやっていくと非常に難しいのかなという気がします。そこら辺の会費徴収とか、有料化といいますか、子どもたちが部活動でできたことが、今度はお金を払わないとできなくなっていくと、子どもたちからスポーツがどんどん遠くなっていくと思います。そういったことをちょっと危惧するので、財政的な面でもスポーツクラブを支援する必要も出てくるのかなと思いました。

遠藤洋路 教育長

一番大きな問題は、お金をどうするのか。もう一つは人をどうするのかということですが、全国的な課題として両方あるので、当然熊本市でもそうなんですけど、国全体でのそういう制度、支援の仕組み、そういうことも必要だと思います。それはこれから熊本市でも検討するとともに、国にも必要な要望をしていきたいと思います。

他にご意見、ご質問はありますか。

ご発言がないようでしたら、本件は以上といたします。

・報告（2）令和4年度（2022年度）第58回熊本市学校環境緑化コンクールについて

《福田衣都子 指導課長 報告》

・報告（3）令和5年度（2023年度）小中一貫校への移行について

《福田衣都子 指導課長 報告》

西山忠男 委員

これは前もご質問させていただいたかと思いますが、Aグループのように1対1だと非常にやりやすいと思うんですけど、Bグループのように複数の学校が関係する場合のやりにくさというものもあると思うんですね。

それで、既に江原地区と天明地区で始まっているようなんですけど、実際にやってみて出てきた問題点とかいうのはないんでしょうか。

福田衣都子 指導課長

まず、小中一貫校につきましては、懇談会も行っており、意見も聞いております。

その中で、江原中学校、天明中学校区におきましても、非常に協力していい取組がなされていると聞いております。その中には、合同で研修会が行われたり、常に校長先生同士が情報交換をされるなど、当たり前のように工夫をされている中で、課題点としては今のところは伺っておらず、逆に、どうしたらさらに有効な取組ができるだろうかと工夫を考えていただいているように感じております。

出川聖尚子 委員

質問なんですけど、このBグループのA小学校とB小学校という図が書いてありますけど、このA小学校とB小学校の交流というのはどのようにされているのでしょうか。

福田衣都子 指導課長

これは、中学校区によって、また、学校規模や学校間の距離によって違うかと思うんですが、特に今、小学校同士の交流をというよりも、小・中全部合わせた交流をというところで進めていただいておりますので、それぞれの地区でいろんな取組がなされている状況でございます。

令和4年（2022年）10月 教育委員会会議録【10月27日（木）】

出川聖尚子 委員	外側の仕組みは小・中の合同でいいのかなと思うんですけど、中学校に行く子どものことを考えると、AとBの小学校同士の交流が既にあったほうが新しい中学校に行くのにいいのではないかなと思いました。
福田衣都子 指導課長	出川委員のおっしゃるとおりで、小学校の中での交流というのは非常に大事であると考えております。 例えば、今、天明中学校区においては、小さい学校が多い校区でもございますので、5年生と一緒に集団宿泊教室に行ったりとか、水俣の学習に行ったりとか、そういうこともなされております。また、学校区によっては、学年同士でオンラインでつないだ英語の授業を一緒にしてみるなど、いろんな工夫があると聞いておりますので、今後もそのような取組を推進していきたいと考えております。
遠藤洋路 教育長	他にご意見、ご質問はありますか。 ご発言がないようでしたら、本件は以上といたします。
〔閉会〕	
遠藤洋路 教育長	本日の会議日程は全て終了いたしました。これで、令和4年10月定例教育委員会会議を閉会いたします。